

滋賀短期大学 令和7年度入学式 学長式辞

今年は桜の咲くのがいつもより遅く、正門の桜がいつもだと満開でみなさんを迎えるのですが、今年はやっとなつぼみがふくらんできました。数日のうちに満開になると思います。ようやく本格的な春になってきたようです。

新入生のみなさん、入学おめでとうございませう。滋賀短期大学へようこそ。本学の教職員、在校生一同、心から歓迎します。

保護者やご家族のみなさんも、おめでとうございませう。お子様たちの晴れ姿、よくご覧いただきたいと思ひます。

そして本日、みなさんのために、ご多忙の中をご臨席いただひているご来賓の方々にも心から御礼を申し上げます。日頃から厚いご支援をいただひており、本当にありがとうございます。

さて今日から皆さんは滋賀短期大学の新入生として、それぞれが専攻する分野の勉強を深めていくことになりませう。滋賀短期大学はこれまで4学科で編成されていたのですが、これを今年から2学科の編成に改めませう。皆さんはその新しい滋賀短期大学の1期生ということになりませう。

今年から始まった新しいデジタルライフビジネス学科の中には、食健康・製菓マイスター・総合医療事務・デジタルビジネスの4つのコースがあり、幼児教育保育学科とあわせて5つの学びの道があるとしてひます。それらのコースや学科がどのような専門性を持ち、どのような教育を進めていくかについては、オープンキャンパスなどで説明を聞いてひ思ひますが、入学に当たって、もう一度、滋賀短はなぜこのような学びのかたちにこだわるのかについて、本学がたどってきた道を振り返りながら見ておきたいと思ひます。

短期大学は2年間という短い間ではあるけれど、その間にしっかりと資格や免許を取り、それをもって早く就職して社会人として成長していくには有利である、というところが長所だ、と言われてひます。私自身、そういう説明をすることがよくあります。ただこれが短期大学の良さのすべてだといひいいのでしょうか。

短い期間でしっかりと専門性を修得することは、短期大学の教育として大切なことです。それなのに専門性を高めるために学科という枠組みを設けていたのをはずし、複数の専攻をあえて一つの学科に編成したのは、その枠組みを越えた学びというものを実現したいと考えたからです。

日本の大学では学部、短期大学では学科というのが基本的な組織の単位で、それが同時に専門性の枠組みになってひます。大学の学部でいうと法学部とか経済学部とか

工学部という単位は、同時に法学や経済学、工学という学問のまとまりであり、その学問を応用して社会に形成されている有用な職業集団のまとまりでもあります。とくに工学というのは科学技術の工業への応用部門を集めたもので、日本の経済発展に大きく寄与した分野です。

短期大学の学科は、やや実践的な枠組みになりますが、生活学科というのは衣食住にかかわる専門分野をまとめたものであり、幼児教育保育学科というのは幼稚園や保育園（今は認定子供園が多くなっていますが）での保育・教育を担う人を養成する専門性をもった分野といえます。短期大学の卒業生は、これらの専門性をもった分野で、現実の社会が必要としている問題に対応してきたといえるでしょう。

しかし現在、社会がより複雑になり、様々な問題が従来の専門性の枠組みだけでは対応できなくなっています。そのため大学や短期大学も、従来からの学部・学科ではなく、新しい考え、新しいコンセプトに基づいて、学部・学科を再編したり新設したりするようになりました。

滋賀短期大学が昭和45年（1970）の設立当初から置いていた服飾学科を平成3年（1991）に生活学科に改変したり、昭和62年（1987）に設置した秘書科を平成12年（2000）にビジネスコミュニケーション学科に改変したりしたのも、教育内容を社会が必要とする分野に適合するものにしようとしてきたからです。そして平成20年（2008）には、滋賀女子短期大学から共学の滋賀短期大学にかわりました。近年では令和4年（2022）にデジタルライフビジネス学科を新しく設置しました。

幼児教育保育学科も、設立当初の名称は幼児教育学科で、2年目からは保母養成も行ってきたのですが、平成15年（2003）に幼児教育保育学科と改称して、保育士の養成を学科名にもうたいました。幼児教育保育学科は、免許や資格の取得の関係から、学科の枠をはずすことは難しいのですが、教育内容としては現代の子供たちが心身ともに健康に育つ環境づくりを、色々な角度から見ていこうとしています。

このように滋賀短期大学ではこれまでも社会の変化、時代の要請に従って学科の名称や内容を改変したり、新しい学科をつくったりしてきました。しかしこのたびの改編は、3つの学科を1つにまとめるという、一見今までの動きに逆行し、規模も縮小する一方のような印象をもたれるかもしれません。たしかに少子化の流れに沿って、大学全体を適正な規模にすることも必要な対策の一つです。しかしそれだけでは消極的な改革にしかありません。今回の改編で滋賀短期大学が目指している積極的な改革といえることが2つあります。

1つは令和4年のデジタルライフビジネス学科の創設の時に目指した、社会のデジタル化に対応した教育内容を、一つの学科だけではなく、全学に展開することです。現代社会のデジタル化というのは、単に技術的な革新だけではなく、デジタル技法の導入によってあらゆる分野で、これまでに使われてきた方法や考え方が変化して

ゆくことを意味しています。産業経済の分野では、デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展がこれからのカギを握るという意味で、「2025年の壁」ということが言われています。私たちは今この壁を乗り越える道を進もうとしているのです。

こんなことを言うともものすごく難しいことを勉強して欲しいと言っているように聞こえるかもしれません。そうではありません。最初は学修に必要なことを、パソコンを使ってやってみる、たとえばデータをエクセルで動かしてみる、レポートはワードで書いて整理する、というようなことから始め、それでこれまでには見えなかったことが見えてくることを実感して欲しいのです。これを本学では、すべてのコース・学科共通の勉強の方法として位置づけているのです。

2つ目はお互いの連携ということですが、もともとデジタルライフビジネス学科も、その当時の生活学科とビジネスコミュニケーション学科、2つの学科の連携によって生まれた学科でした。今回、それをさらにすすめてデジタルライフビジネス学科のもとに、3つの学科を統合しました。その下には食健康以下の4つのコースがあって、それぞれの専門性を維持していますが、同時に幼児教育保育学科もあわせてそれらの5つの学びの相互連携、コースや学科の枠を超えた学びを意識して欲しいと思って新学科を設計しました。そのためにコース共通の科目も用意しました。デジタルはデジタルライフビジネス学科全体の重要なキーワードですが、デジタルだけではなく、例えば食健康コースが専攻する食の問題は、医療にもビジネスにも、そしてこどもの保育にも深い関係があります。5つの学びのコースはそれぞれの専攻を深く学んでほしいの言うまでもありませんが、同時にほかの専攻にも目を向け、自分の専攻をより豊かにする視点を取り入れてほしいと思います。

次は今回の改編とは直接関係はありませんが、この滋賀短期大学で学んでほしいことをもう一つあげます。それは教養ということです。皆さんにとっては教養というようなことは死語かもしれません。教養をつけるなんて古臭い、時代遅れのスローガンといわれそうです。しかし教養というのは、大げさに言えば、世界にはこんな面白いことがたくさんあるということを知ること、そして人間というもののありかたの多様性に耳をかたむけること、そして自分自身にとって生きるための知恵を身につけることなのです。世界のことを知るのは決して物知りになること、クイズ王になることではありません。今は様々なメディアによる情報があふれている時代です。そのなかで、今言ったような本当に有用な知識や知恵をどうしたら選びだせるのか、これも教養として教えられることのひとつです。そのために本学では共通科目というかたちでこれを提供しています。授業以外にも教養を身につける方法は読書などいろいろあります。今は読書といっても、様々なメディアがあります。図書館の利用も便利で有効な手段です。本学の図書館はそれぞれの専攻にあった専門書はもちろん、古今東西の古

典、最近話題になっている本、子どもための絵本まで、幅広く揃えてあります。思いっきり利用してください。

そしてもう一つお願いしたいのは、このキャンパスでぜひ充実したキャンパスライフをおくって欲しいということです。まず同じ専攻の仲間、そして違う専攻でもサークルやクラブ、自治会などでいっしょになる仲間、うまくコミュニケーションをとって仲間意識を育ててください。これまでコミュニケーションをとるのが苦手だった人は、思い切って隣の人と話してみてください。また先生や職員の人にも遠慮なく話しかけてください。そしてできたシガタン仲間はきっとこれからも強いきずなで結ばれた仲間になるはずですよ。

最後にもう一つ。皆さんはすでに社会人の予備軍だということです。アルバイトでもコンビニでレジにいたら、客から見ればほかの正規の店員さんと同じです。また18歳以上の皆さんには選挙権があります。国政選挙では今年の7月ごろに参議院議員の通常選挙が行なわれます。滋賀県では、4月には彦根市長選挙、10月には甲賀市・湖南市・東近江市・野洲市・米原市などの市議会議員選挙があります。

自分が一票を入れても何も関係ないと思うかもしれませんが、しかし社会人として地域社会を支えていくのだという自覚をもって、ぜひ選挙にも参加してください。今あげた市に住んでいる人はとくに忘れないでください。

世界ではまだ戦争で苦しんでいる人たちがたくさんいます。私たちはそれを遠い世界のこととしてみています。これを身近なことと感ずることはできないのは無理ありません。しかし同じ地球の上でどうしてあのような悲劇が起こり、終わらないのか。それを考えていくのが社会人としての使命だと思います。皆さんも社会人の予備軍として考えてみてください。

色々なお願いをしましたが、これからの2年間、皆さんがこの滋賀短期大学で充実した時を過ごせるよう願って式辞とします。

令和7年4月2日
純美禮学園理事長
滋賀短期大学学長
秋山元秀